

# フェローシップ・ニュース

## 45

### JICA & APARI フィリピンプロジェクト 活動報告 第4回派遣(2011/1/16~22)

特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日  
2011年3月1日

アパリは、平成21年度よりJICA（国際協力機構）の草の根技術協力事業として、マニラ市の貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業を展開しています。

3年間のプロジェクトの2年目で、今回は4回目の派遣になります。派遣メンバーは近藤、三浦、山本、古藤、志立でした。それに加え日本ダルク アウェイクニングハウスから猿渡、ダルク女性ハウスから瓜生、京都ダルクから加藤、沖縄ダルクから森、そして沖縄ダルクの入寮生3名が同行しました。今回はJICAでアパリの担当をしている高橋氏も同行しました。更にNHKの取材も入る予定でしたが、スケジュールの関係で延期になりました。

今回の渡航では、現在タタロンで行われているARMミーティングを視察し、そこでダルクのプログラムで行われている琉球太鼓を披露したり、現地の人との交流を図ってきました。また、ARMミーティングは現在1ヶ所のみ開催していますが、今後開催場所を増やすためにその候補地となるところの視察もしてきました。

次回の渡航は5月頃を予定しています。

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。



JICAフィリピン事務所にまずはご挨拶。滞在中のスケジュール、進捗状況等の確認を行いました。

#### <第4回渡航スケジュール>

- 1/17(月): JICAフィリピン事務所訪問、ファミリー・ウエルネス・センターにて打合せ
- 1/18(火): 近藤恒夫のレクチャー
- 1/19(水): タタロンのARMミーティング視察、琉球太鼓の演舞、参加者へのインタビュー
- 1/20(木)午前: 保健省訪問 午後: 教会Hope for the World訪問 (琉球太鼓)、教会近くの施設を訪問 (琉球太鼓)
- 1/21(金): MADAC (Makati Anti Drug Abuse Council) 訪問



ファミリー・ウエルネス・センター (FWC)のオフィスにて打合せ



近藤恒夫のレクチャー  
FWC代表リッチー氏の姉のオフィスにて



マニラのNA会場  
お洒落なカフェに集まり、仕事の前にミーティングをします。

#### 目次:

JICA & APARIプロジェクト活動報告…志立	1
国連アジア極東犯罪防止研修所講演 警察庁表敬訪問 新刊本のご案内	4
発達障害シンポジウム IN富山…中村努	5
入寮者からのメッセージ…カズ	6
新しいプログラムの紹介…山本施設長 ジュンさんに感謝!…尾田真言	7
アパリからのお知らせ	8



# 写真報告集

タタロンラーニングセンターで行われたARMミーティングの様子。今回は日本から大勢参加したので、総勢30名位になりました。ファシリテーターはコアメンバーのガブリエル氏です。



移動のバスの中。リッチー氏がバスガイド役を務めていました。



タタロンラーニングセンターでは普段、子供たちに学習の場を提供したり、薬物乱用等の予防教育を行っています。

ARMミーティングが終わった後、沖縄ダルクと日本ダルクアウェイクニングハウスのメンバーによる琉球太鼓の演舞がありました。ドシャ降りに見舞われ、急遽隣の部屋に移動しました。このスペースで5名叩くのは大変そうでした。



フィリピン保健省を訪ねる前に記念撮影。後ろの建物が保健省。



フィリピン保健省、アパリ、FWC、JICAとの合同会議。セブ島で薬物使用者のHIV感染が広がっている。政府はこれを何とかしなければと思っている。ぜひ力を貸して欲しいという話がありました。

## 【事業概要】

**事業名:** マニラ市貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業

**事業の目的:** マニラの貧困層に薬物依存症者のためのミーティングが開催される環境が整う

**対象地域:** フィリピン マニラ市の貧困層地域

### 活動及び成果:

- 1、本事業を実施する上で必要な現地情報を収集し、中心となるコアメンバー5名を選出する。
- 2、コアメンバーの本邦研修により、ミーティング開催に必要なノウハウやファシリテートスキルを学ぶ。
- 3、現地でミーティングを開催し、地域で薬物依存症についての理解とミーティングに対する理解を深める。
- 4、ミーティングの際に使用するハンドブックを作成する。

**実施期間:** 2009年5月～2012年3月(約3年)

**カウンターパート:** ファミリー・ウェルネス・センター = FWC(マニラ)

**協力機関:** タタロンラーニングセンター(タタロン)



ARMミーティング会場の候補地にあがっている教会「Hope for the World」にて。ここでは週に1回子供たちのプログラムを行い、その後に給食も提供しています。ここでも琉球太鼓を披露し、子供たちは大喜びでした。



村の風景



MADAC (Makati Anti Drug Abuse Council) を訪問しました。  
マカティ市で薬物事犯で捕まるところに連れて来られ、回復チームがアセスメントを行い、入寮、通所のリハビリに分けられます。通所者はMADACの施設内でプログラムを6ヶ月受け、その後18ヶ月のアフターケアに入ります。現在100名以上の対象者がいます。  
こちらもARMミーティング会場の候補地になっています。この会議の中で、市長も期待しているのですぐにでも話を進めたいと、とても好意的でした。また、将来的に日本に研修に行くことは可能かと質問を受けました。

教会を訪問した後にPaje牧師から、近くに見て欲しい施設があると言われ、バスに揺られ約1時間走って着いた所は、山の中の貧しい村でした。公民館のような子供たちに勉強を教える場所に連れて行かれると、100名近くの子供や村人が集まり、私たち一行を大歓迎してくれました。そこでも琉球太鼓を見たいというリクエストがあり、先ほど叩いたばかりだったので、メンバーたちは最後の力を振り絞り、太鼓を披露しました。まるで日本からヒーローが来たかのように割れんばかりの拍手を受け、子供たちから握手を求められたり、喜んでいる子供たちの笑顔が印象的でした。

### 沖縄ダルク入寮生の体験談 「一体感」・・・サトル

初めての海外ということもあり、かなり気持ちが高揚していました。フィリピンのイメージとしてはバナナとか一時期流行したフィリピンパブのイメージしかなく、漠然としたまま出発の日を迎えたのですが、飛行機を台湾で乗り継ぎ段々日本語が周りからなくなってくると、今までの人生で感じたことのない類の不思議な気持ちになりました。自分にとって初めてのこととか、新鮮な場所というのが気分を変える良い刺激でいい気付きがあるかなあと期待に胸を膨らませながら空港に着きました。

気温は真冬だというのに25 以上あり、みんな半そでに短パンにビーチサンダルなので少し沖縄みたいだと感じました。基本の言語はタガログ語が主流で、共通言語は英語で、たまにスペイン語を話せる人もいたりとか。日本との関わりも多い国だから少しだけ日本語を話せる人たちもいるようでした。フィリピンで今、NAミーティングや回復プログラムが進んでいるのは、マニラの中心地の豊かな生活を送っている人たちがほとんどで、実際田舎の街では飢えをしのぐ為に子供たちが食料よりも安いシンナーを吸っていたり、その流れで日本でも多い覚せい剤がシャブという日本と同じ名称で出回っていて、ポピュラーな感じだということには驚きました。なんか街に着いて初めて感じたのは、みんな彫りの深い浅黒い顔をしていて、忙しく動き回っていて車もクラクションを鳴らさずじまったり、対向車線に堂々と駐車している車があったり道路交通法とかはないのかなと思うくらいせわしく、何かほとんどアディクトみたいな動きをしているなあと圧倒されました。

自分たちが行った目的として貧困層に焦点を当てたミーティングプログラムの見学、また山の中の村のようなところと教会で太鼓を叩きました。話で聞いていたとおり、街の中はゴミだらけ、皆やせていて裕福とはいえない街でした。ミーティングでの話を聞くと、大人はシャブやお酒を飲んでいたり、幼い子どもでもシンナーやシャブを覚えて苦しんでいるようでした。でもエイサーを叩くと興味津々で最後のカチャーシーでは総立ちになって音楽が終わるまで踊り続けてくれました。「こんなに盛り上がってくれて本当にありがとう」って一体感を味わえました。夢中になって太鼓を叩く子供たちの姿を見て、こんな天使のような笑顔の子どもが薬や犯罪に手を染めてドロップアウトしていくのは本当に悲しいことだと本心から思えました。こんなにかわいい子ども達の将来が明るい未来でありますようにと心の底から願えました。藤岡のダルクの仲間と一緒にエイサーを叩かせてもらってとても良い刺激になりました。言葉では上手く伝わらないもの「薬物を止めたい」という思いは十分に伝わったと思います。満足感と感謝に包まれた時間でした。アディクションに関する会議に出席しフィリピンの仲間とフェローシップをとり、太鼓を叩いてあっという間の濃密な5泊6日の旅でした。このような体験をさせて頂いた事にダルクとフィリピン研修を援助してくれた両親に心から感謝をしています。

沖縄ダルク入寮生3名が参加し、そのうちの1名の体験談を掲載しました。  
沖縄ダルクのニューズレターから転載しています。



## 国連アジア極東犯罪防止研修所(アジア研) 近藤恒夫が講演！

平成23年1月27日、国連アジア極東犯罪防止研修所(通称：アジア研)で行われている第147回国際高官セミナー「犯罪者処遇における社会との連携」で理事長の近藤恒夫が外部講師として招かれました。平成15年の第124回に続き、今回で2回目です。

海外からの参加者はバングラディッシュ、ボツワナ、ブラジルなどアジア、アフリカ、南米地域9カ国10名の国家警察や裁判所等の高官でした。それに加えて国内参加者は更生保護委員会や裁判所、検察庁、刑務所等の司法関係者でした。

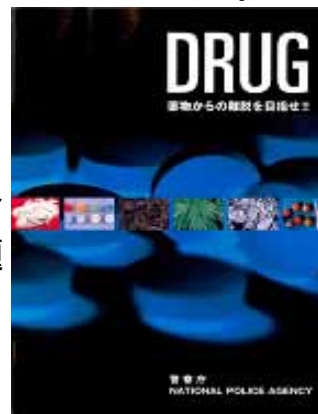
近藤のテーマは、「薬物依存者の処遇における社会との連携」でした。まず始めに現在フィリピンで活動中のJICAの草の根支援活動について話しました。そして、厳罰化についてアメリカと日本との比較、アメリカが失敗しているのにも関わらず日本はまだそれを続けているといった話も出ました。また、世界のNA(薬物依存症者のための自助グループ)についても話し、参加者の中でNAを知っている人?と尋ねたところ、ブラジルを含め2~3名の人たちが手を挙げていました。

## 警察庁の組織犯罪対策部を表敬訪問しました！

平成23年2月21日、理事長の近藤恒夫と事務局長の尾田真言が警察庁の小谷渉組織犯罪対策部長を訪ねました。

アパリ、ダルクは薬物事犯者の再乱用防止に向けて活動していくので、警察庁と今後も協力関係を築いていきたいと伝えました。その話の中で、小谷部長は全国にある都道府県の薬務課が初犯者の再乱用防止プログラムを実施するのが良いのではないかとコメントしていました。警察には病気のことはわからないので、薬務課が中心となってプログラムを構築し、ダルクが協力して当事者を派遣している栃木県のやり方が望ましいとのことでした。

警察庁が発行した『DRUG 薬物からの離脱を目指せ!!』というパンフレットには、全国のダルクリスト、家族会のリストが全国の精神保健福祉センター、各都道府県警の相談窓口とともに薬物問題の連絡先一覧として掲載されています。このパンフレットは初犯者に配られることを想定しているようです。



写真左側から小谷渉警察庁組織犯罪対策部長、近藤、尾田、徳永崇警察庁薬物銃器対策課長。

### 書籍のご案内！

#### 拘置所のタンポポ

日本ダルク代表  
近藤恒夫 著

- 目次
- プロローグ のりピー、ダルクへおいでよ
  - 第1章 絶頂からの転落~そして再起 わが波乱の半生
  - 第2章 誰が、なぜ、ヤク中になるのか
  - 第3章 あまりに知られていない覚せい剤の世界
  - 第4章 なぜ薬物依存者は立ち直りにくいのか
  - 第5章 立ち直るためにはどうすればよいのか
  - 第6章 新生した仲間たち

発売：双葉社  
定価1,400円(税別)

増刷されました  
全国の書店でお買い求めください！

#### 新刊本のご案内

デーブ・スペクター氏との対談本 発売！  
「ニッポンの薬物依存」



昨年の秋から発売が遅れていましたが、ついに近藤恒夫とデーブ・スペクター氏の対談本が発売されることになりました。

4月頃出版予定  
価格：1,680円(税込)  
衝撃のDVD付き！  
生活文化出版

全国の書店でお買い求めください！！

#### シリーズ:世の中への扉(仮題) 「ほんとうのドラッグ」

近藤恒夫の子供の頃から現在までのストーリーを伝記本にまとめ、出版することになりました。

「小学校の頃の先生はヒロポン中毒が多かった。転校した学校の子供たちはみんな顔が黄色かった。時々子供たちはヒグマに襲われていた」といった幼少期を振り返って綴っています。

7月頃出版予定  
予定価格：1,260円(税込)  
講談社

# シンポジウム 「依存問題を発達障害から考える」

## 第5弾 富山

福岡から始めて富山まで計5回の全国行脚のシンポジウムが幕を閉じました。全回通して参加した講師4名に加え、各会場ごとにゲスト講師を迎え、専門的な講義や体験に基づくお話など盛りだくさんの内容でした。最後に、ワンデーポートの活動を通してわかってきたことを施設長の中村努氏にまとめてもらいました。

### ワンデーポートの取り組みの中でわかった課題

発達障害がある人すべてが、というわけではありませんが、発達障害に起因する依存である人は、依存症のミーティング(グループセラピー)に参加するとやる気がないように見えてしまいます。その理由はいくつかの原因があるのではないかと思います。

「今日一日」というテーマが出されたとします。依存症の人は、先のことを考えてすぎて失敗を繰り返す傾向があります。たとえば、1年後に借金を完済したいとか、遅れを取り戻すために将来のビジョンを考えます。あれこれ考えた結果、それが焦りになって無理をして、依存行動に戻ってしまうわけです。「今日一日」というのは、先のことを考えてきた人が、「今日」のことだけ考えることでうまく運ぶという逆説的真理です。実際に依存症の人は、「今日一日」という言葉を理解できると、とても気持ちが楽になったと話すようになります。

しかし、たとえば軽度精神遅滞やPDD(広汎性発達障害)がある人は、先のことを考えることは苦手ですし、先のことを考えるほど日常生活に余裕がありません。そもそもが「今日一日」生きることが精いっぱいなのです。だからミーティングで「今日一日」というテーマを出されても「だから何？」で終わってしまいます。過去に先のことを考えていたことを振り返ることもなければ、過去の失敗から「今日一日」の生き方に変えようという話ができないのです。「これからは、今日一日頑張っていきます」くらいの話をするのが精いっぱいでしょう。もし、仲間や施設職員が発達障害のことを知らなければ、底をついていないとか、やる気が足りないと見えてしまいます。ミーティングが深まらない理由を否認ややる気のなさに求めなければ、その人のほんとうの困難が見えてきます。

### 言葉の誤解

また、PDDがある人は、言葉をそのまま解釈することで、意味を誤解することもあります。たとえば、司会者が「ギャンブルをやっているときに辛かったこと」というテーマを出したとします。Aさんは「家族への罪悪感や、借金の支払い」と答え、Bさんは「激アツリーチが外れたとき」と答えました。AさんとBさんの答えは明らかに違います。多くの人のために、Aさんはふつうの感覚です。Bさんの答えは、少し変です。表面的で、軽く、少し意地の悪い見かたをすると、聞き直っているかのようです。しかし、Bさんは真剣なのです。そこで、Bさんの話をよく聞いてみると、「ギャンブルをやっているときに辛かったこと」つまり「ギャンブルをやっている最中に辛かったこと」と解釈していたのです。自閉的な特性を持つ人は、言葉をそのまま解釈したり、行間を読むことが苦手です。この場合は、抽象的なテーマを出した司会者の方に問題があったわけです。もし、「ギャンブルをやっている生活の中で辛かったこと」というテーマにすれば、Bさんの答えもAさんと同じ内容であったのかもしれませんが。

「言いつばなし、聞きつばなし」と言われるミーティングは一見簡単に見えるわけですが、とても高い能力が要求されます。できる人には、簡単なことですが、出来ない人にとっては、ストレスの付加がかかる難しい作業です。

ワンデーポートでは、ミーティングが苦手な利用者に対し、ミーティングを少なくして彼らの必要な生活支援や個別のプログラムを組むことを2008年頃よりはじめました。個別支援を基本として、手帳の取得や、就労支援などを組み合わせるなど、依存行動そのものにアプローチするのではなく、生活を安定させることに主眼を置くようにしています。

### ミーティングで課題になること

- ・言葉の理解ができない(精神遅滞)
- ・言葉の意味を独自に解釈(PDD)
- ・相手の話に興味を持ってない(PDD)
- ・イメージ、想像力の問題(PDD)
- ・集中力の持続が困難(AD/HD)
- ・短期記憶の問題
- ・視覚優位の問題
- ・ハマリ方が違う(衝動的ギャンブル、自閉的ギャンブル)

### ミーティングはかなり高い能力が必要

「相手(参加者)の話の聞き、状況をイメージし、気持ちを想像し、記憶し、自分の過去を振り返りながら、それを言葉にする。さらに、言葉にしながらまた想像し、言葉にする。これらの過程を繰り返し、自分自身に気づきを得る。」

### <全国で開催しました！>

- 第1弾:10月24日(日)福岡  
ゲスト:西村直之先生
- 第2弾:11月14日(日)札幌
- 第3弾:12月19日(日)京都  
ゲスト:十一元三先生
- 第4弾:1月23日(日)広島  
ゲスト:市川岳仁氏
- 第5弾:2月20日(日)富山  
ゲスト:ひいらぎ氏

### <全回共通して参加>

- 稲村厚氏(司法書士)
- 関水実氏(横浜市発達障害者支援センター所長)
- 高澤和彦氏(浦和まはろ相談室・精神保健福祉士)
- 中村努氏(ワンデーポート施設長)

主催:NPO法人ワンデーポート

協力:NPO法人アパリ



富山の会場にて

4月下旬に今回のシンポジウムの報告集(講演記録)を発刊予定。  
お問合せはワンデーポートへ

:045-303-2621



## アウェイキングハウス 入寮者からのメッセージ

### 書籍のご案内！

アパリ発行  
「Born・Again  
(ボーン・アゲイン)」  
体験談 販売中！

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。

アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円  
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで  
FAX：03-5830-1791  
メール：info@apari.jp  
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

### 「過去の自分を振り返って」

カズ

今まで2度の刑務所生活をしている自分です。1度目から2度目の刑務所に行くまでの間は2カ月持ちませんでした。1回目の受刑生活の中で自分が思っていた事は外に出たら「また覚せい剤を打とう・・・。」その事しか考えていなかった自分です。止める気などさらさらありませんでした。出所してまた覚せい剤を使い始めました。今度は、捕まらないようにと思い使いましたが、すぐに捕まり、警察署での尿検査で覚せい剤の反応が出て、覚せい剤取締法違反でまた逮捕。また、刑務所に逆戻りです。2度目の受刑生活が始まりました。その生活の中で思った事は覚せい剤を使っていたら同じ事の繰り返しだと思い、流石に止めようと思いましたが。

そして、満期を迎え、出所しました。ここで、現実を思い知らされました。一人になっている自分がここにいました。助けてくれる家族や仲間が誰もいなかったのです。完全に見放されていました。もう頼むから家にはこないでくれ、の一言でした。でも、捨てる神さえあれば拾う神ありで何とか仕事につけました。風俗でしたが、仕事しました。今になって思うのがむしゃらに働いていたと思います。もう1度、家族に会える様にと考えていました。そして、少しお金に余裕が出てきたので元々やっていた建築系の仕事につき、最初は会社の寮から仕事に通い毎日が順調に行っていました。その頃になると仕事仲間からも信用されるようになりアパートをまた貸しですが仲間の名義で自分が住んで生活していました。そこで、思ったのは、もう自分は大丈夫だ、覚せい剤は一人で止められると思っていた自分でした。ところが、不景気の影響で仕事が暇になり給料を下げるとか会社の社長に言われ、仕事の問題でストレスが溜り忘れていたはずの覚せい剤を打ちました。1度打ったらもう止まりません、前よりもひどくなっています。何も変わっていない自分がここにいました。落ちて行くスピードも早かったです。でも、頭の片隅にあったのは、もう刑務所には入りたくない、覚せい剤を止めたいという気持ちでした。そして、ダルクに行く事を決めました。

ダルクに来て知ったのは、薬物依存症は病気だという事を認識したという事です。過去の自分は蟻地獄のような悪循環に陥っていた事に気付いたのです。毎日のミーティングの中で、また、施設の様々なプログラムを通して色々なヒントが本当にあります。今では、出来ればもう一度、社会復帰、薬を使わない人生を歩もうとしている仲間と共に生活しています。

もうひとりじゃないし、無理する事ありません。ここには、仲間がいます。気が合う仲間、あまり話せない仲間、大勢います。この生活で色々な物を気づかせてもらっています。自分が入寮している施設ではこの施設長が入寮者時代に習得した沖縄の琉球太鼓(エイサー)をプログラムでやっています。自分も太鼓を6ヶ月位で覚えてデビューする事が出来ました。最初は、覚えられないし、難しくて嫌でした。太鼓を初めて1ヶ月くらいの時に旗持ちをさせてもらいました。本番での太鼓の迫力には本当に感動して鳥肌がたちました。そこから本気で練習しデビュー出来るようになり、今では本番で叩いています。頑張れば出来るという事を仲間が教えてくれたという事実、色々な事を仲間の中で気付いてきます。

辛いときもありますが今では夢・希望が持てるようになりました。感謝しています。自分は今後も覚せい剤を止めて行く方向で頑張ろうと思っています。

皆様も身体に気をつけて頑張ってください。

## 新しいプログラムを始めました！

ディレクター 山本 大

こんにちは、日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。身も凍るような寒い日が続きますが、皆様はどうお過ごしでしょうか？ 山の上では2月に入ってから雪が降ることが多くなってきました。毎日昇り降りする坂が雪により凍って、施設から出られないことも起きます。

さて、今年から新しいプログラムとして「カルチャー・プログラム」をスタートさせました。以前に楽器の献品を皆様にお願ひしたところ、音楽制作者連盟の皆様を含め、たくさんの方から楽器をいただき、ようやくプログラムとして始めることが出来ました。まずは週に1度「音楽プログラム」、そして月に1度女性ハウスのスタッフの協力のもとに「アートプログラム」を行っています。これらのプログラムを通して、物事に取り組む楽しさや創造性を育てていければと願っております。



音楽プログラムの様子。プログラムは選択性で希望者は約半分位でした。



アートプログラムの様子。

## 「ジュンさんに感謝！」元アパリ藤岡研究センター施設長を偲んで

事務局長 尾田 真言

平成23年2月13日に岸本純孝さん(ジュンさん)は、がんのため急逝されました。私はジュンさんと平成11年1月にアパリ藤岡研究センター(現・日本ダルク アウェイクニングハウス)ができたときから12年のお付き合いをさせていただきました。

平成11年1月15日、日本ダルクの近藤恒夫代表から「群馬県の山の中のホテルを手に入れた。みんなで掃除に行こう」と言われた当時のスタッフとジュンさんをはじめとする入寮者5,6名が掃除道具をトラックに乗せて藤岡に向かったのですが、近藤代表は夜になると、「みんな、今日からここに住め、俺は用事があるから帰る」と言って帰ってしまったので、彼らは藤岡の山中の廃墟となっていたホテルに取り残されました。何の準備もなしにいきなり転居させられてさぞかし戸惑ったことだと思います。その日から藤岡のダルクが始まりました。

平成12年2月にNPO法人アパリが設立されてすぐに、「保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム」を始めて最初の1人を藤岡に連れて行ったのが7月でした。当時は裁判中の短い期間だけ、藤岡で受け入れてもらうようなことをしていました。ジュンさんは嫌な顔一つせず、誰でもすぐに受け入れてくれました。そのため、いろいろと施設を混乱させて迷惑をかけたこともあったと思います。そのお陰でこのプログラムは後に、刑事司法手続のどの段階にいる人も対象になるように発展し、仮釈放者の受け入れも日常的に行えるようになりました。

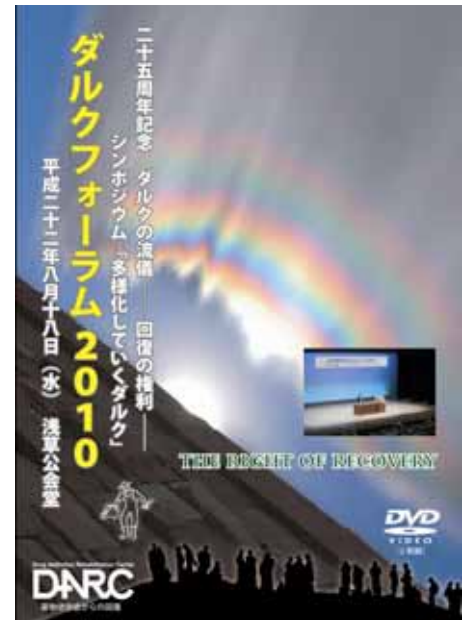
またジュンさんは持ち前の社交性を活かして、地元のスーパーの厨房に裏口から出入りして食材を安く大量に仕入れるような関係になりました。一緒にタイに研修旅行に行った時には、チェンマイのストリートチルドレンの施設の厨房で巧みにフライパンを使って野菜炒めを作り、子どもたちから大喝采を受けたこともありました。精神病の症状が悪化した入寮者から殴られて顎を砕かれ1ヶ月近く入院したことがありました。その退院を祝ってみんなで韓国に施設見学にも行きました。その時に訪問した韓国麻薬退治運動本部や国立釜国病院のチョウ・ソンナム院長とはその後も密接な交流がこの10年続いています。

このようにどんなことがあってもいつでも笑顔を絶やさず、ジュンさんは藤岡で頑張ってくれました。ジュンさんがいたからこそ、アパリの事業を発展させることができた本当に感謝しております。



犬が大好きなジュンさんでした。

## お知らせ！！



### ダルクフォーラム2010 25周年記念DVD発売開始

昨年8月18日に浅草公会堂で行われた25周年記念のDVDが発売開始しました。2枚組みで当日のフォーラムが全て収められています。

<DISC1>  
オープニングビデオ  
講演：土山希美枝氏「多機関連携を“つなく・ひきだす”」  
祝辞：田中康夫氏（衆議院議員）、法務省矯正局

<DISC2>  
シンポジウム：「多様化していくダルク」  
各ダルク施設紹介スライド  
講演：近藤恒夫「ダルク25年の歩み」

定価：5,000円  
メールあるいはFAXでお申し込みください。  
FAX：03-5830-1791  
メール：info@apari.jp





特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

**アパリ東京本部**

〒110-0014  
東京都台東区北上野2-2-2  
電話：03-5830-1790  
FAX：03-5830-1791  
Email：info@apari.jp

**アパリ藤岡研究センター**

(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)  
〒375-0047  
群馬県藤岡市上日野2594番地  
電話：0274-28-0311  
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に13ヶ月

【入寮費】

月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください  
<http://www.apari.jp/np/>

発行者：近藤恒夫  
編集責任者：志立玲子  
平成23年3月1日発行  
定価 1部 100円

**<アパリの司法サポート>**

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

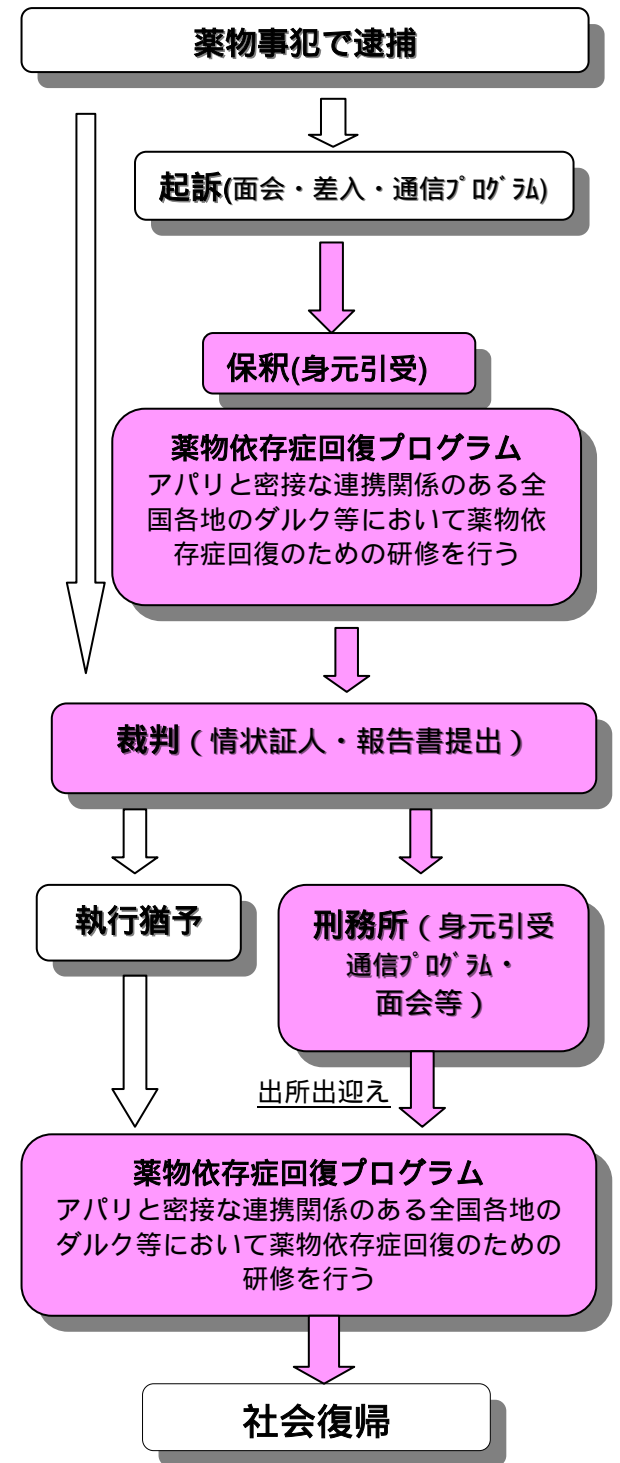
保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本の覚せい剤事犯の再犯率は約60%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

ギャンブルの問題が原因で逮捕された方もご相談ください。

[費用:コーディネート契約料として一律20万円。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

[お問合せは東京本部まで]

**アパリの支援**



**<アパリ・家族教室>**

日時	テーマ	ファシリテーター
3月7日(月)	幸せにする考え	町田 政明
3月21日(月)	新しい生き方	町田 政明
4月4日(月)	ダルク25年・アパリ11年を振り返って	近藤恒夫(予定)
4月18日(月)	怖れを手放す	町田 政明
5月2日(月)	共依存からの回復とは?	町田 政明

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者  
 【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30(祝日も開催します)  
 【場所】アパリ・クリニック上野2階 【参加費】3,000円(2名の参加は4,000円になります)  
 【内容】ファシリテーターと家族との分かち合いを行います。  
 【予約】不要です

**<個別相談・カウンセリング>**

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など  
 【料金】45分 9,000円  
 【場所】アパリ東京本部  
 【カウンセラー】町田政明(元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープヒル代表、寿アルク理事)  
 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790